





持  
164  
3597  
3

お本母京公彦寺三日月録

六付雁寮付  
 蓮花堂三回  
 阿弥陀堂付  
 滑谷  
 厚門  
 音形の  
 経書堂  
 法親寺八坂塔  
 長樂の  
 六道  
 智積院  
 鳥部の  
 清水寺付  
 廣同の  
 馬頭車の  
 三年坂付  
 高其の  
 香山  
 大佛付  
 豊園大明神  
 大谷  
 田村堂  
 地権現の  
 泰産の  
 香山  
 菱林寺  
 祇園

阿部氏



七冊目



四條川原 ウヤシの 目廣地蔵 付 植子 親善 建仁寺  
 智恵院 付 一心院 并 吉普原 將軍 將軍塚  
 三申 悲田 悲田心 南 南禪寺 付 若菜寺  
 永親堂 御 御宿野 付 日星 山 山科  
 安祥寺 花 花山



此本抄京本産巻之三

六波羅密寺 付之桑坊

之條の坊より東口町よりありて六波羅あり今今之  
 桑坊坊毎ハこれ六条坊の通あり相承毎とてびり  
 の六条坊の通そのりも六条坊とてありては  
 坊通の細と候坊をわき川乃東の界より人形探の  
 芝居ありとてとて周角をあらへん乃城より内裏  
 ありありありありとてけし坊とてけし坊とてけし坊  
 者ハ今今桑川ありありとてけし坊とてけし坊とてけし坊  
 してありとてけし坊とてけし坊とてけし坊とてけし坊  
 乃六波羅の通とて人の界とてけし坊とてけし坊  
 立ありり供養とてけし坊とてけし坊とてけし坊  
 十一面観音ありけし坊とてけし坊とてけし坊



それういありとてかろ物統ありと六波羅乃地蔵堂より  
親善も同存ありと鑑うらむとて親善も沙々也  
又平相國は善入道法海乃本像あり

何れとてさうとてさうとて人の心とてさうとてさうとて母

六道

六つれお乃さうりありとびり小野と善い瑠魔まを。中  
二乃官官の仁男とて持中おはさうりなりな  
か。考さうり官をまわりとてはらるの地とありとて  
ハ橋本よりつふさぎとて者いさうとてかから臨とてさうり  
けぬよをせれんとて真金乃るありとてさうりなりとてさうり  
今も善い乃さうり臨とて善いあり毎年  
七月九日十日の両日ハ臨人さうりさうりさうりさうりさうり  
て善いとてさうり臨とて瑠魔まの本像ありとてさうり

安かとい日ハ善音灯明供物とてさうりさうりさうり  
ハ石地蔵教百軒ありとてさうりさうりさうりさうり  
ふとて瑠魔まのあり

いさうりさうりさうりさうりさうりさうり

大佛一付年隊

豊臣の園善音を建立あり。慶長三年八月は  
つとつれつとて七年十二月廿日ハ焼ありとてさうり  
ら乃派息善頼系與一とてさうり南都東大乃大佛  
なり準せらる。金銅十六丈乃盧金佛相好見  
かささられしとて大佛なり。信善ありとてさうり  
年乃つとつとて信乃肩肩もさうりさうりさうり  
修補とてさうりさうりさうりさうりさうり  
Pとてさうりさうりさうりさうりさうり



























と結してていそく我をてう侍軍地益侍殿門  
乃像とほくつてて持念をいせは師とや男とい  
られかりてとて冥後といひてまらるる地益門  
の本像その沙弥。夫疾刃敵たりわらう。是を  
泥はさあり。お軍のよく侍とたれ。事と奉じ  
らひ。勅所とおなりといふ  
奥乃千子に約唐居士の草庵の徳あり約唐のふ  
千子親香香満江雅臣神兒と持念。又三井もの  
後侍和為とあつてさなうとたがひう約唐の侍り  
と侍つておかへてこれ仙人とてまらるるといひ  
ぬまういぬ  
三井の奥の方塔のいづれなる堂の初念堂あり。そ  
東りあり。田村堂あり

塔の南の梅門と摩門と名づく。門の西面は摩と  
いふ。このと彫りけり。このものも水う。自らとてよ  
く。鶴毒とていふ。とく  
門の北のこ。塔の南に小き。塔あり。とてと摩の  
堀と名づく。田村將軍とて先は山う。堀して延徳の  
はう。存てんをたう。その目よりを摩と記す。と  
塔あり。情摩園うとて海といふあり。堀の深を  
おとる。あり。まをの人もは清あり。とあり。馬  
車次よりとて。かあり。とあり。也。は。磨る。像とて  
うの。海の。堀。か。とて。と。海。う。ら。海。と。て。を  
いふ。あり

まをの海の古布子花を風やとてらるる  
地主権現



清多此地も権現の年をこのうへありあり。石れさ  
一五君つりののりて南じさうきりそののちも群  
船あり権現の字地は天竺文殊めくたり。また四月  
九日地をうつりて神事あり権現堂の西のまう  
石ころりのまて青石と名づけたり。そよあまふ  
目とあまふそ地とあり石より石まうてあまふ  
中しくとらうかありあまふそ地とありめくらを  
あづくともや

鍾の心ろ庵も清多此地まの傍まうつり月歌と  
音好勝

奥子手の下ふあり。石壇六十間つりてはうて  
ふつとしてこれハ滝口三とら西へじうひてある勝のよ  
ろ。はあり。せよ牛黄地といひは経心うらむ社のと

びうり勢と法うき書あり。こごひりあく那智地を  
権現うそたつりまんとつひは勝のまふりてなれり  
うへりう音好おそてあり。そのあまふおおらうと。音好  
川といひ川ノ末地う勝といひ勝とをらぬよ音好勝  
とあづく。せえの山よ同名の滝あり古今集よ音好忠  
水うきり

おら勝つ勝のおとまはまり老よまじまらうとすら  
とよめりいむえの山の勝あり。紙友剛うきり

音好おけこそこれハ音好まふ子あうらうんを  
勝つとをぬまふの音好川とくひもあまふとあま  
とる氏乃よ海まういひ清多の勝の事あり。山あり  
山科清多をむえの山とあり音好の名あり。あま  
ぬこの清多の知らうるまふとつりつりあく。あま











經書堂

三年坂とのかりて登りてたれこむむも也幸なる生  
徳を子よりてかりてまはしむるの傷ハ經本ハ信花經  
の文と書きたりけり信徳人たるは經文とてけり  
百餘と多敷一書のみありてて名もさへ向て結縁と

楊子とわびあつるはのむ經書堂より書保まゝに書

三年坂付夷橋

坂乃長廿五りりわらるる南よりむひてのかりせりい  
りけ坂をうつりけりこころおんりあつて二年とてさ  
ど死すとていふもさるる命のちあつてけ坂をて  
あつたま川二年此うらわねあつてさるる今もわ  
つて又屋宇坂といふ人あり。子も乃經書よりのまは  
平屋とて義とていひて屋宇といふ子むむとて

りふととかりてりり。さるる信ち也と。又あつた人のい  
る清ありまうりて人け坂をて二ふい志能あつて  
ふあり。今念坂といふ。さるるしりり。今もあつり  
清あり寺ハ大同二年もまはれけ坂ハ源の年ひき  
一あり大同の三年坂也

その坂はよりむも海へさる小川のよの橋と東の橋と  
ふ。田所のさるりやけ橋が。橋をさるる。何と  
人ともやあつてさるる先て石橋とてけ。あが橋と石  
りてけり。橋はめり。さるる。おは。橋をよま  
此金銀あり。まはり。さるる。橋をさるる。をり。わらてか  
りとも人。あつて。あをさるる。さるる。あつて。この人あつて  
て。か。の。石。橋。と。川。中。へ。あ。あ。と。い。は。橋。ま。ま。と。さ。る。り。さ。る。り。  
ま。れ。り。



我の父と母と坂ありはそなたなりと物裏の橋て母  
靈山

國の一人の軍基ありけと人の大がさつらんわりと慈  
悲ありく伊規を神とて是れをそなたとて目とてあり  
とれたる中よ母の屍ありうらとてわつとてうらとて  
ゆらひ多りの女をを神とてして一人のつとた先  
しゆふとあり。一人船縁の清とてあてれをねと下向  
ちんちんあり。うらとてはむありなれいさくお業  
又あまふしとてはむありし業又の人の首をいさく日ま  
はげとてふらうらとてあまふらうらとてと人のあ  
しだ杖とてはむありの付物あり又一人の首をいさく  
沙池佛たりしとて是れをそなたとてわつひとてふらうら  
とて是れ乃とてゆらあり。母ふ靈佛とて号とて。ちんちんあり

佛ありては母ありくそつひとて

靈山の杖也はは樂れそとてあまふらうらとてふらうら沙池林  
八坂塔

祇園と清水とのる。とねと八坂といふ。靈山よりと西水  
之所りりありてたのたよとて是れはありと号とては親  
寺と号とて世よ八坂の塔と名づく。清慈を所とては  
乃とてありとてありとてわつとてはむありとて。清慈をそ  
の二善親を清慈の中ハの子母の清慈帝一の孫なり。  
清慈曰業ありて千字とて編し。ねと靈山の靈  
法師の弟子あり。それらとて累高誠とてありて  
昔のしゆとて先とてありとて号とてわつひとてありと  
とりら二人の子とてありとて。天曆年中乃書とて。八坂  
乃塔とてありとてあり。そつひとてありとてありとて



つひにさへ一ま儀の事よめてぬら。新しうまて浄蓮  
 をおろしおがきてわらをら浄蓮をせうおらくわら  
 失くさうと熱いまづ弑し鴨川のあまひひてお念を  
 一うばあたらま化しさうらまうおられら。それゆゑ  
 乙人の子と膝ののを塔へ向くわらよ凡ゆるらて  
 淨のちうまゆして。塔へまてらわらわらわら  
 八坂さうらまゆらまらら。まねと人おわら入るら  
 浄蓮兄結してわら目なてえ。さうら  
 塔のうらうらまゆらまらと池とわらて浄蓮池  
 しあつ。塔のうらうらまら。そのうらわらとわら  
 とのうらうら池のゆらまらたて。浄蓮のうらわら  
 ちへらうらまらと池と浄蓮とらまらわらまら  
 おやまけら









香山

長樂寺の山あり。香山安楽寺と号す。何れに  
とも遊りの末より。あつて。ちやうど池あり。  
慈徳和尙の住み。いふに。香山安  
樂寺長樂寺の山と。いふに。遊覧。乃宿よあり  
産女いり。ちやうど。遊人の。接飯。て。集。は。ぬ。  
は。ま。て。た。め。を。居。と。は。師。と。ま。婦。う。て。住。り

祇園

祇園の女二社の中。あまも。延喜式神名帳。の  
の。とら。ま。ん。式。外。の。神。と。号。す。い。め。の。社。の。較  
し。ま。う。と。う。と。は。長。曆。二。年。八。月  
の。女。二。社。と。定。ま。り。石。清水。吉。田。山。野。祇。園。の。二。社

を。式。外。と。し。て。あ。ま。を。二。社。と。定。ま。り。式。外。と  
な。す。と。判

と。い。尾。外。は。乃。祇。園。牛。頭。と。号。す。信。和。天。皇。貞  
觀。十。一。年。の。祇。園。の。事。と。て。山。陰。守。宅。部。八  
坂。師。の。勅。給。あり

は。沙。神。の。地。の。業。師。の。来。り。無。迹。と。ぬ。ぬ。天  
竺。の。金。剛。神。又。は。摩。訶。羅。神。と。号。す。と。長。日  
の。て。の。盤。古。大。王。と。い。ひ。日。本。の。て。の。素。戔。尊。と。い

と。又。廣。く。の。牛。頭。天。王。と。号。す。或。は。長。孫。と。号。す。と。名。の  
く。安。樂。飛。竜。と。い。ひ。と。め。波。利。采。女。と。号。す。と。八。子。と  
生。好。と。い。ひ。の。春。屬。八。万。七。千。六。百。五。十。七。社。也。と。い。ひ。巨  
旦。將。来。と。い。ひ。の。宿。り。と。い。ひ。と。牛。頭。天。王。と。い  
ひ。て。と。い。ひ。と。種。氏。の。来。と。い。ひ。の。宿。り。と。い





きんねんはうあてりうねんつとてうや  
 中朝雲遊のりあへんうささ候とるこの子  
 とさるのこのさへあを園敷の川とらうわさく  
 てまう乳足をけら主婦のるる福田庄とてじとあ  
 わり号とれりちとらひてとあうりわさうひとあを  
 ハ波乃大地とらうてををねと名くは宮原乃中津  
 あり候多つと

祇園の神社と産第一社のとさるのこのさとれ半  
 天とてれりまたその遊びあふとれこの道社と  
 号とて方うりうて用あまのり大音也然  
 茶統のりともつて中二社の福田庄せよあお丹  
 と号とてその遊びゆくとれハ歳徳社とてなれ  
 女とてれりまた其意也柔和乃涉社とては方



向いてあたまを。うらの大音也。社八岐の大地  
これ巨目お來の愛化なり。能毒氣神と号して  
極びゆく。たの金神と名づく。又と名を門のあり。也  
悪を七能の愛ど。何あまの金神七殺の方とて  
万まじり。忌事也。又波利女。うらとま。八の軍。八は  
季。字を用。の初夜神。まり。たの軍。黄幡豹尾。おこ  
ま。也。八万。子の眷属。う。夜病とわ。ふ。の。あ。ま。ら  
や。され。も。か。の。種。氏。お。來。り。子。孫。う。の。夜。神。と。う。た。り。  
わ。ら。う。う。と。と。契。物。れ。り。ま。は。な。り。第。の。痛。と。お。れ。  
と。あ。う。う。う。て。種。氏。お。來。り。子。孫。と。書。つ。け。と。と。の。あ。れ。  
ま。ま。り。う。の。あ。ま。事。あり。と。う。や。六。月。十。六。の。祇。園。の。沙。  
君。と。う。て。と。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。

十八の山と。う。う。う。う。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。  
ま。ま。り。う。の。あ。ま。事。あり。と。う。や。六。月。十。六。の。祇。園。の。沙。  
君。と。う。て。と。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。  
ひ。く。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。  
命。下。あり。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。  
神。各。の。八。岐。の。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。  
法。拾。遺。初。集。よ。ほ。と。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。  
ふ。よ。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。持。う。り。う。う。と。と。案。大。物。と。案。  
持。う。り。う。と。案。も。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。う。の。あ。ま。事。



ちるちるわむはまらる姫おねあ氏ふくとゆり成るり  
祇園市の石の多井の氣いま是に院所の氣を純は  
親王の御多徳感神院の文字まこくにむらるづり  
ちるちるわむはまらる大地震りる多井たをきて氣もれ  
ぬぐえらるをきこあぞあこらねなる祇園乃今の山が  
この六角堂ありて園とらり徳をとあつそよまのよ  
し今よりそありて或はむらりてとせそ

徳をたあつそよ園やあゆむの山と徳と祇園を

### 田舎末川原

祇園乃西の梅門よりあり方とこれ祇園町二町ど  
り此をいふ原をそとあり稽いふいひてあるまふ  
も芝居とらまふて崩れとらつてひと海くかゆと  
はすあり。根のつけらる大徳の氣又ハ居合を花

也ーあま捕子牛の鶴のつらりあるいふ魚をなめつじ  
ふ。生をそまひの人あんどたりくふよつてとすも  
あり。津路橋人取あやゆりそとこれと名あり。築を致こ  
味線拍子とらり。其園を初乃事。親とけをせそ  
とつけ。まこ。新い。か。つ。あ。れ。と。り。と。ま。せ。根。を。折。  
く。と。の。あ。り。て。い。満。産。を。有。り。契。り。を。ゆ。び。ふ。又。と。は  
より。境。の。上。に。案。と。わ。の。こ。と。も。ま。の。是。お。わ。り。を。ね。と  
登。高。堂。の。こ。こ。を。て。け。川。原。り。奇。舞。妓。と。ら。り。の。ま。は  
し。か。か。い。時。わ。ら。ふ。お。ね。の。人。く。を。り。さ。り。と。や。し。と。を  
や。あ。か。し。や。う。と。た。ら。と。は。と。は。た。を。ほ。い。あ。の。山。を  
見。物。と。い。ふ。乃。か。と。ら。り。男。女。乃。歌。ゆ。り。あ。り。ゆ。つ。て。れ。と  
く。が。け。け。づ。の。目。と。ら。り。深。入。て。俗。も。は。師。も。一。徳。と  
ら。り。の。あ。ま。ひ。の。家。よ。つ。ら。り。一。堂。或。寺。の。ま。は。し。





江戸の町

かろうのまをもしみふけひの舞をともふし。初づゝあはれ  
 詠とくくしけふもわくま敷まうかうははあうまのど  
 ろに節舞れまうひわうて。う舞ぬいゆいさうま  
 河原物まのうありぬ

あもあぬふあはらじ舞あま杖乃尻ぶうれまら  
 志ろとささうらうらと又いんまわく舞あまも年うと  
 たうねとお舞とわくさうま。さうつけ舞うて舞あま  
 わう何とあらんあけまうぞれかゆうぞう

同慶地蔵付 桂子歌音

河原川原乃末のほ免南乃さう同慶地蔵とせれと  
 しまんそのうとと末縄もの末からあまうらう舞あ  
 けあう安とと。舞身う。舞舞とわあて舞前も舞  
 とたも舞はさあふと舞乃ああ名とはきて同慶の



地蔵よりあつたなり。神道のつらひをせし寺より地蔵のれ  
とむと少と目瘡の地蔵と書つけたり  
と書きし親をたつしは決まるといひし祇園林のむふ  
極乃もそとゆづりた河原乃溜りありてさるお上宿  
とてししありさるはしし極とてふはそる事也。あつ時  
清あり寺も極とみふたがきありしはあよなき  
乃親もとばりしをわたり。むら乃師定朝が他よりや  
あつた人ふあけふ手親の事いふは清とてとよむ  
と清下障乃眼病もけ地蔵のいのきい金とてたぐ  
地蔵むらりとれつとてまらつ。十二灯佛。佛も地蔵の  
あつたゆゑなりつる。さう親ももつあつたゆゑなり  
相伝乃地蔵なる親ももつあつたゆゑなり  
建仁寺

目瘡の地蔵堂よりとむ建仁寺あり。そのつらひのあつた  
と糸繩も大橋よりとむらつたむら大佛のあつた  
とて建仁寺町とてとむらつた  
當寺ハ東面祿師の園臺としてとむらつた建仁二年  
うわらつた。伝書大の字源家とありらつた乃東上地  
とけりつて福院とてとむらつた。東西ハ体中必若備  
津より人あり。胎肉をとりて八月ありて生後。ナニ業  
ありておまゐし。十八業乃とておまゐる。おまゐるは  
あ。十九業ありて天台とてとむらつた。仁安三年。夏。月。入  
宋。し。わら。後。宋。帝。景。深。大。佛。如。を。乃。と。入。宋。ち。も  
し。に。お。ま。ゐ。そ。の。秋。九。月。後。宋。帝。景。深。を。乃。と。入。宋。ち。も  
三年。ま。ま。ひ。て。入。宋。と。て。お。ま。ゐ。そ。の。秋。九。月。後。宋。帝。景。深。を。乃。と。入。宋。ち。も  
り。関。あ。ら。り。て。う。か。り。ど。お。ま。ゐ。そ。の。秋。九。月。後。宋。帝。景。深。を。乃。と。入。宋。ち。も







大師乃親經教惠心傍助乃性生而業集子法てはわふ  
 涌後他方此念佛門とむらまき最安四年二月と市  
 て。古水より居位一燈よ淨公乃法つと候ト始す。八  
 宗乃碩學みお定と人乃中子とれる。建永二年二月よ  
 横筋垣飽在る流さ息。九年と經く建曆元年より  
 わりぬされ大管よこころ決乃より正月廿又日より近化  
 わりぬ。あ八十歳あり

一心院の智恵院乃とらりわり。源安と人乃ととらひ  
 法とつと又古水を寂山乃とらり。同く名あり。そ乃  
 古水へ丸山の鳥よりあり。そのとと慈徳和為あふ位  
 始ひ一燈より古水和為と号をも。今と考母と院海の  
 主へはあふと法法ありといふ

智恵院乃門内より慈徳和為あり。せよふと慈徳和為は



智恵院

廿八



石より一りけてゆらぐ原の平し海もありとも  
其昔原の智慧院よりなる其原あり慈徳和為

我急むと河海の深きして高きあり風吹く  
とく海よりいば原れまるとてと世原けちと翻葉

一海  
我急むと河海を深きして高きあり風吹く  
將軍隊

智慧院より小原のころの軍隊あり桓美と宣勅  
しては神相意の地とりの免今の高きと定めあり  
長八尺の土湯人とけくつ。鉄乃甲冑とて世鉄の  
夫とてとを海向う立あうらうとせ天白らうの  
して乃守備神とてゆきと天下よわらういありん  
としていふとて鳴動とていふ。河もとい天下を平國

ち安穩ありて塚の鳴動とてまするけきへ年はの人  
もてしまするものも。縁よめてたかきありい

三申  
ち安穩ありて塚の鳴動とてまするけきへ年はの人

三條通大橋乃東白河橋より一町たりと東今此  
其院沙の地の地と申乃社あり。傳教大師の四化  
として。見ざるさうさうとてこの儀とて社  
なり。いりて度申此日の多かの人とてさうで焼明  
信物とてさうさうとて。それかの人とて儀よぬとて  
乃いさ。免とていさ。そのさういさ。さうさ  
とてさうさうとて。身ふさうとてさうさうとて  
一まざるありとていさ。表さうとてさうさうとて  
信う。教とていさ。さうさうとて。信爲史の付い













いびとう神

とよ免ははは葉田山乃事あり。日乃吾らといひてよ。
 廣聖とて天智とて皇の涉凌の法なり。いみへハ涉
 廣は聖中一ありし。くは城東乃人ものり物と有りて
 礼なして通りぬあまらしうむされあますとて。中
 ろろと乃山うろろとめくろきり。ひくころ幕ハ
 案れ涉るよ免され山科乃里よ約意ありて。その
 まかり給いざり交つてくろて崩涉ありとも。知人
 何とて涉智乃高くとつとろと見はけて。やぐ
 てそのとろろろ涉凌とてそめりといふ。本物十
 陵の中一といひていみへハ病おれ日ら所とほくひと
 一。ち美と決安とて色られといふ。

山科  
 け聖免をと鳥息ふ大のやうといふと山科







此書は安祥寺にて。法生乃に...  
乃を物と堂のあり...  
此のあやうく...  
山乃...  
伊勢...  
別...  
花山

花山

山乃...  
深...  
三月...  
て...  
り...  
み...  
と...  
ま...  
け...  
と...  
つ...  
ク...  
花...  
う...  
は...  
津...  
流...  
あ...  
あ...  
花...  
あ...  
あ...

と...  
ま...  
け...  
と...  
つ...  
ク...  
花...  
う...  
は...  
津...  
流...  
あ...  
あ...  
花...  
あ...  
あ...





山  
人

山  
人  
之  
居  
處  
也

山  
人  
之  
居  
處

山



